

氏名	網岡 尚史
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6112 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Serum malondialdehyde-modified low-density lipoprotein levels on admission predict prognosis in patients with acute coronary syndrome undergoing percutaneous coronary intervention
(血清マロンジアルデヒド修飾 LDL の値は経皮的冠動脈形成術を施行された急性冠症候群患者の予後を予測する)

論文審査委員 教授 笠原真悟 教授 和田 淳 教授 松浦栄次

学位論文内容の要旨

【目的】マロンジアルデヒド修飾 LDL (MDA-LDL) の急性冠症候群 (ACS) における予後予測因子としての有用性を検討する。

【方法】2009 年 10 月～2014 年 9 月に三豊総合病院で経皮的カテーテル形成術 (PCI) を受けた ACS 患者 370 人が対象。入院時の血清 MDA-LDL 値にて対象を 3 群に分け、その後のイベント (心血管死, 非致死性心筋梗塞/脳梗塞, 心不全入院) を比較した。

【結果】観察期間中 (中央値 472 日), 82 人 (22%) でイベントを認めた。 Kaplan-Meier 解析では MDA-LDL が最も高い群は最も予後が悪かった (ログランク検定, $p < 0.001$)。Cox 回帰分析の多変量解析では MDA-LDL の値は独立した心血管イベントの危険因子であった (1SD 上昇によるハザード比 1.80 (95% CI 1.07-3.16), $p = 0.027$)。

【結論】血清 MDA-LDL の値は ACS 患者の PCI 後の有意な予後予測因子であった。

論文審査結果の要旨

研究の背景と目的: LDL コレステロールは動脈硬化を引き起こすことがよく知られている。特に酸化 LDL は注目され、その中でもマロンジアルデヒド修飾 LDL (MDA-LDL) は特に動脈硬化と関連性が深い。今回、MDA-LDL と急性冠症候群 (ACS) における予後予測因子としての有用性を検討したものである。

研究の成果: 経皮的カテーテル形成術を受けた ACS 患者 370 人を対象として、MDA-LDL の値により 3 群に分け、その後のイベントを比較検討した。Kaplan-Meier 解析では MDA-LDL が最も高い群は予後も高く、多変量解析では MDA-LDL は独立した心血管イベントの危険因子であった。

予備審査における疑問点や問題点: 現在までの結果で、安定狭心症では MDA-LDL は予後との関連性が示されている。しかしながら、ACS の様な重症患者においても予後の層別化が、この MDA-LDL ができるかということが今回の研究の重要点であった。年齢と MDA-LDL の値が大きく関係している様な結果であり、今後の研究の継続が重要と考えられた。しかしながら今回の結果は、重症患者における脂質異常に注目した臨床上有用な提言を示しており、価値ある業績と考える。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。